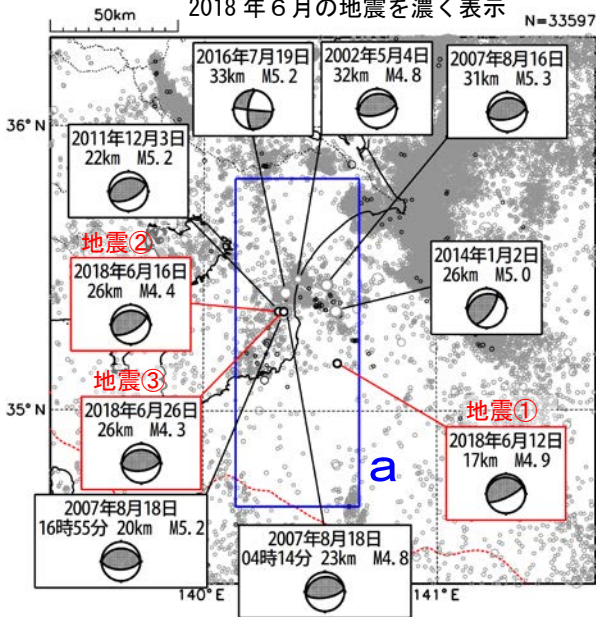


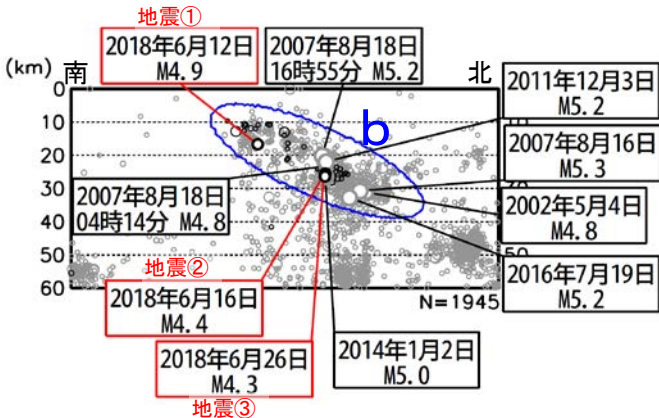
千葉県東方沖から千葉県北東部及び南部付近にかけての地震活動

震央分布図

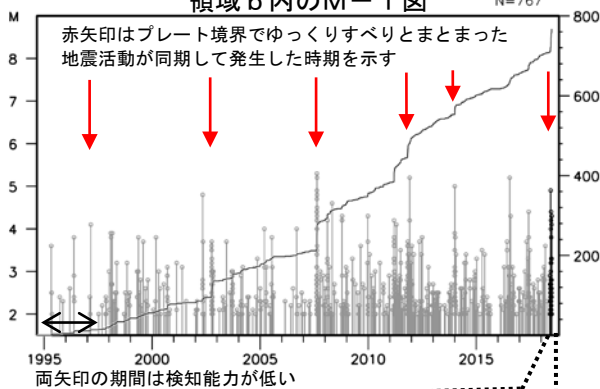
(1995年1月1日～2018年6月30日、
深さ0～60km、 $M \geq 2.0$)
2018年6月の地震を濃く表示



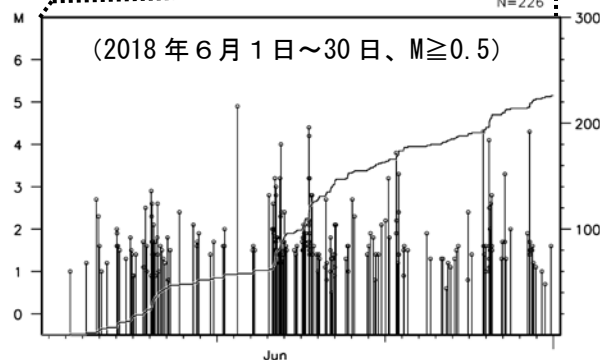
領域 a 内の断面図 (南北投影)



領域 b 内の M-T 図 (N=767)



(2018年6月1日～30日、 $M \geq 0.5$)



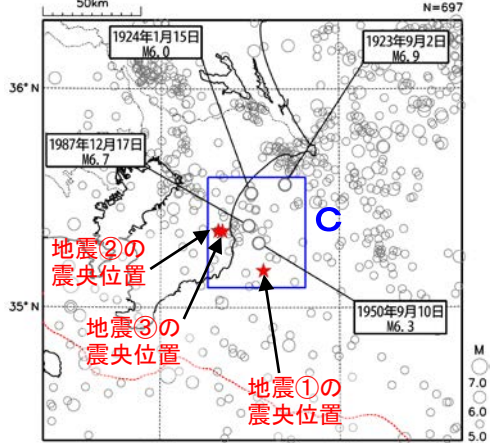
2018年6月3日から千葉県東方沖から千葉県北東部及び千葉県南部付近にかけて地震活動が活発となり、30日までに最大震度1以上を観測した地震が26回(最大震度4:2回、最大震度3:6回、最大震度2:8回、最大震度1:10回)発生した。最大規模の地震は、6月12日05時09分に千葉県東方沖の深さ17kmで発生したM4.9の地震(地震①)で、また最大震度4を観測した地震は、16日11時09分のM4.4の地震(地震②)及び26日19時46分のM4.3の地震(地震③)である。地震①②の発震機構は北北西-南南東方向に圧力軸を持つ逆断層型、地震③の発震機構は南北方向に圧力軸を持つ逆断層型で、いずれの地震もフィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した。今回の地震活動に同期して、プレート境界でゆっくりすべりが発生している(国土地理院、防災科学技術研究所による)。

今回の地震活動の震源付近(領域b)では、1996年、2002年、2007年、2011年、2014年にもプレート境界でゆっくりすべりとまとまった地震活動が同期して発生した(国土地理院、防災科学技術研究所による)。

1923年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺(領域c)では、M6.0以上の地震が4回発生しており、そのうち、1987年12月17日にフィリピン海プレート内部で発生した千葉県東方沖の地震(M6.7、最大震度5)では、死者2人、負傷者161人、住家全壊16棟、住家一部破損7万余棟などの被害が生じた(「理科年表」による)。

震央分布図

(1923年1月1日～2018年6月30日、
深さ0～120km、 $M \geq 5.0$)



領域 c 内の M-T 図 (N=49)

